

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870305000		
法人名	有限会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 和楽樹	ユニット名	1ユニット
所在地	〒300-0007 茨城県土浦市板谷1-478-3		
自己評価作成日	平成22年6月24日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年8月10日	評価確定日	平成22年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホームは住宅地の外れに位置しており、田園風景に囲まれた緑豊かな環境下にある。地域の一員として近隣の幼稚園や小学校との交流を積極的に図り、町内清掃や盆踊り等の行事にも参加している。</p> <p>また月に一回ちぎり絵の講習会を開いたり、外食・買い物ツアー・野外散策などを行事に取り入れ、社会との関わりを継続できるよう支援している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は利用者本位の支援を第一に考え、職員は利用者を人生の先輩と考え、昔の風習や生活の知恵などを教えてもらえる存在として捉えている。</p> <p>自治会行事への参加や近隣の幼稚園との相互訪問などを通して地域の人々と日常的に交流し、協力し合う関係を築いている。</p> <p>2ヶ月に1回発行される広報誌のほか、個々の利用者の健康報告や最新状況を写真やコメントで紹介する「ケアマネ便り」を送付するなど、利用者の家族等に対してもきめ細やかなサービスを提供している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には全職員で理念の読み上げを行っている。会社理念を具体化したホーム独自の目標もあり、職員の意識づけと共に実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関や事務室に掲示したりパンフレットに掲載するとともに、職員の名札の裏に記載して意識付けをしている。 法人全体の理念のほか、より具体的な事業所独自の理念、職員個人の理念を作成し、利用者の支援にあたっている。 管理者と職員は毎日の申送り時や業務カンファレンス時など、常に理念を確認し合い実践に向けた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域で行われる清掃・盆踊り大会・公民館で開かれるも催し等に積極的に参加し、地元の人々と交流している。	自治会に加入し利用者と職員とで清掃や祭りなどの地域行事に参加して交流を図っている。 ギター演奏やフラダンス、日本舞踊などのボランティアの受入れのほか、近隣の幼稚園と年10回ほど交流の場を設けるなど、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう努めている。 運営推進会議では「地域貢献について」を議題とするなど、地域との係わりを大切に考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、地域で必要とされているホームでできる事などを話し合っている他、近隣の幼稚園に手作りの品物を寄付している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、色々な情報や結果報告・ホームでの取り組み内容や支援方法等について話し合いを行っている。また、そこで提案された意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、会議では利用者の生活の様子や事業所の運営状況の報告などを行うとともに、出席者同士で意見交換をしている。 会議で出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加し、市町村との連絡を図り、情報交換や助言・入居者の相談に応じている。	2ヶ月に1回開催される市内のグループホーム協議会に市職員が2名参加するとともに、他の事業所も交えて情報交換し、運営について助言を受けている。 市担当者への電話や訪問、市担当者の事業所への来訪などを通して交流し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	役職者については、指定基準の理解を深めている。他の職員については、役職者より随時説明している。また、目の届く場所に身体拘束の手引き書を置き、自由に閲覧できるようになっている。	身体拘束を行わないことを契約書に明記するとともに、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 利用者の外出を察知した場合は職員が同行するなど、利用者の意思を尊重する支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について半年に1回勉強会や、カンファレンスを実施しているほか、研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加するとともに対象となる方が入居している時には、行政担当者や相談し、必要な提供をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をきちんと明示されており、入居の際には十分に説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付の担当者が掲示され、入居時に説明している。また玄関に意見箱を設置し、ご入居者やご家族の意見を運営に反映できるように対応している。	職員は利用者からは日常の触れ合いの中から、家族等からは来訪時に意見や要望を聴くほか、介護相談員を受け入れるとともに、利用者や家族等から出た意見等は全職員で話し合い運営に反映させている。 苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記するとともに玄関に掲示しているほか、意見箱を設置しているが投函の実績はない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回業務カンファレンスを開き、その際できるだけ職員全員参加のもと意見や提案を吸い上げ、運営に反映させている。	運営者や管理者は職員が意見や提案を言える関係を築き、出た意見等は運営に反映させている。 管理者は職員の個々の事情を組み入れ、働きやすい環境づくりに努めている。 「行事計画」「物品管理」「レクリエーション」等の職員担当は輪番制になっており、職員からの意見や提案につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、業務に関する届出書（残業・休日出勤等）を提出するほか、カンファレンス時に職員の要望を聞き入れたりしている。また、職員が働きやすいよう環境整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職や経験、資格にあった研修が受けられるように考えており、できるだけ研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設との交流を図る為市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流会を通してサービスの質の向上を心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ホーム見学を兼ねて来て頂き本人の状態・悩んでいる事・要望等を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるようにしている。見学に来られない方に対しては、ご家族に来て頂き、話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ホーム見学を兼ねて来て頂き、ご家族の方が現状抱えている悩みや困っている事等を聞き出し、実際のサービス開始時にそれらを活かせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する際、グループホーム以外の介護保険サービスも紹介・説明し、本人及びご家族がその時必要としているサービスが利用できるよう支援していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事については声かけ・説明し、なるべく自力で行えるよう支援している。また、本人の趣味や特技を活かし、職員と一緒に活動するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある際には、広報誌やご家族面会時に連絡し、参加して頂けるよう促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により行きたい場所があれば職員が同行したり、市外や圏内の場所に行きたいとの要望についてはご家族に連絡し送迎してもらうようにしている。会いたい人がいる場合は、ご家族に連絡してもらい面会に来て頂くよう支援している。	職員は利用者の行きつけの美容室への送迎や買い物に同行するほか、親戚や友人との手紙や電話のやりとりなどを支援し馴染みの関係が継続できるよう努めている。 宗教についても他の利用者に影響が及ばない範囲で利用者の意思や希望を尊重し、人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活からご入居者同志の関係や相性を把握し、グループ分けや座席の調整を行い、孤立することなく関わり合って生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の契約が終了しても、ご入居者やご家族の方から要望がある場合は必要な相談等に応じるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホーム独自のハートケアプラン表を作成し、日常の会話や活動の中でご本人がやりたい事・行きたい所・こうしてもらいたいと思う事等を書き出し、ご本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望を記入した利用者の声である事業所独自の「ハートケアプラン」を利用者本位に作成し、全職員は利用者の思いを共有している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他福祉サービス利用時の様子や状況をご家族や他事業所から情報収集を行い、把握に努めている。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やカンファレンスにご入居者の状態報告を行うとともに、連携医療機関にも報告・相談し、対応している。生活行動で疑問がある場合は、ご家族に連絡相談し、把握しておくようにしている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、ご入居者やご家族の意見を取り入れた介護計画をを作成している。ホーム独自のハートケアプラン表も取り入れ、3ヶ月ごとに見直している。	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れて6ヶ月に1回定期的に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直しして作成し、利用者や家族等の確認を得ている。 支援経過を毎日記録するとともに3ヶ月に1回モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録への記入のほか、カンファレンスを活用しながら情報を共有し、日々のケアに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者やご家族の方と相談しながら、一人一人の要望に応えられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にはボランティアの方に声をかけて協力して頂くほか、毎月1回ちぎり絵の講習会を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご入居者が受診希望される医療機関を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを原則としているが、要望があれば職員が付き添い対応している。 利用者の希望で月1回協力医の訪問診療を受診できるほか、月2回看護師が来訪している。 受診結果はその都度家族等へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護師に相談しながら、日常の健康管理を支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入院中の状態を病院やご家族を通して確認したり、必要に応じてご家族了承のもと医療機関関係者と通院に向けての話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の方針についてご入居者やご家族に説明するとともに、状態変化により重度化した場合はホームとご家族で話し合うほか、係りつけの主治医とも今後の対応を検討している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を契約時に利用者や家族等に説明し確認を得ている。 事業所では利用者や家族等の希望に応じて看取りまでのケアを行う方針であるが、現在のところ実績はなく「意思確認書」等の書類を整備するまでには至っていない。 医療機関との連携は24時間体制で図られているが、重度化や終末期におけるケアについての具体的な支援体制について話し合うまでは至っていない。	重度化や終末期のケアについては、医師や看護師、事業所職員などの関係者間で統一した見解を共有し、利用者等の意思を確認する書類等の整備を図ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成、設置しているほか、消防署の協力のもと心肺蘇生の講習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練（地震想定・夜間想定・火災想定）を行うほか、運営推進会議の際に非常時協力の呼びかけをしている。また、近隣の方や区長・民生委員などにも声かけを行い、災害時協力の体制を確保している。	年2回、昼間や夜間想定避難訓練を実施し、運営推進会議や広報誌等でその状況を報告している。 利用者一人ひとりの居室の入り口付近に避難経路を掲示している。 昨年目標達成課題である災害時の備蓄については飲料水の補充はあったものの十分な状況ではなく、保管場所についても確保するまでには至っていない。	9月に実施される今年度2回目の避難訓練に、地域住民の参加を得られる予定となっているので、その実現を期待する。 食糧や飲料水、毛布、懐中電灯等の備蓄とその保管場所について、更に検討することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間の尊厳・プライバシーの尊厳を理念に掲げ、ご入居者の自尊心を損ねないように注意して声かけ対応を行っている。	契約書に利用者の権利として「個人として尊重され、プライバシーが保たれ、尊厳が維持される」と謳っており、管理者や職員はその具現化に努めている。 職員は利用者を「～さん」と呼び人格に配慮している。 個人情報を使用する場合は家族等に承諾を得たり、個人用ファイルを事務室の鍵のかかるロッカーに保管するなど、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動やレクリエーションなどご本人がやりたい事を聞き出し、買い物や外出などもご本人の希望に合わせて日時を決め、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、ご本人の希望を取り入れながら自分のペースで過ごして頂くように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は、自分で選んでもらっている。理容は、2ヶ月に1回ボランティアの方に来て頂き切ってもらっている。また、自分が行きたいと思う店がある時は、職員がご家族の方と相談し行けるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事にちなんだメニューを献立表に取り入れ、ご入居者の好みや咀嚼能力に合わせた調理や味付けなどを工夫している。個々の状態に合わせて、配膳や盛り付け等できる事は職員と一緒にを行うよう支援している。	食材はカロリー計算されたものを外部調達している。 利用者は職員と共に配膳や下膳などできる範囲で行っている。 寿司屋や定食屋、ファミリーレストランなどで月2回の外食会や、節句や誕生会などの行事にちなんだ食事、おやつを提供しており、利用者の楽しみとなっている。 事業所の畑で採れた野菜を利用して調理することも利用者と職員の話題づくりに役立っており、楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供し、毎回食事摂取量をチェックしている。水分摂取量の少ないご入居者については水分チェック表で1日の摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいを行い、口腔内の状態把握に努めている。異常があった場合は連携医療機関に報告し、適切な支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、オムツ交換及びトイレ誘導を時間を見計らって促し、トイレで排泄ができるよう支援している。	職員は利用者の生活のリズムや排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けて支援している。 失敗した場合は誰にも気づかれないうようにトイレや風呂場に誘導し、自尊心を傷つけないよう配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方については連携医療機関に相談・助言を頂きながら、運動や食事療法を行い予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には毎日入浴できるようにしている。極力、ご入居者の希望の日時に入ってもらおうようにしている。	風呂は毎日沸かし、利用者一人ひとりの希望に応じた入浴を支援している。 ゆずや菖蒲、入浴剤等を利用して、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。 入浴を嫌がる利用者には強要せず、タイミングを見計らって再度誘ってみたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて日中の活動を多く持ち、適度な疲労と適切な休息・睡眠が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には、処方せんを全職員が確認するほか、変更があった場合は必ず申し送りノートに記入している。副作用については、連携医療機関や看護師に確認・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味・特技などを教えてもらい日々の余暇活動に活かし、反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はベランダや庭でお茶を飲んだり、散歩に出かけたり、行事にカラオケ・外食会・買い物を取り入れ戸外に出かけられるよう支援している。	事業所周辺の散歩が日課となっており、車椅子使用の利用者も一緒に出かけられるよう職員が介助し、四季の変化を肌で感じ取れるよう支援している。 利用者の希望に合わせて、日用品の買い物や近隣の公園に同行するなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は大半がホーム側で行っており、買い物や外出時には職員が支払いをしているが、ご入居者が自分でできる方についてはご本人がお金を所持したり支払ったりしている。出納帳は、面会時にご本人及びご家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、基本的に自由に使用して頂いている。自分で連絡できない方については、職員が代わりに電話をかけたり手紙を代筆したりして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周りには季節の花が咲き、ホールから連なるベランダからは畑で育った野菜が一望できる。館内にはご入居者の普段の生活風景写真や季節に見合った装飾を施し、ご入居者が居心地よくゆっくりと寛げるよう工夫している。	リビングには一段高くなった畳みのスペースやソファが設置されているほか、壁面には利用者の制作したちぎり絵や行事の写真などが飾られ、家庭的な雰囲気居心地よく過ごせる場所となっている。 なすやきゅうり、かぼちゃ、にら、じゃがいも等を栽培している畑は、利用者と職員が収穫などを共にする場となっており、五感を刺激したり季節の移り変わりが感じられる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースとして和室があり、コーナーにはソファとテーブルが置かれている為、気の合う仲間同士で過ごせるよう場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や家具を持ち込んで、ご本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。また、ご本人の状態や好みに応じてベッドの使用を検討している。	居室には介護用ベッドが設置されているほか、テレビやラジオ、ダンス、本箱など利用者の使い慣れた馴染みの物品が持ち込まれ居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の主要部には手すりが付いており、安全に生活が送れるように工夫している。玄関はスロープになっている為、車椅子でも出入りがスムーズに行える。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 和楽樹

作成日 平成22年12月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	9月に実施される避難訓練に地域住民の参加を得る事と非常災害時における食糧・飲料水等の備蓄の十分な補充と保管場所を確保する。	どんな急な災害でもスムーズに対応できる様な支援体制と地域住民との連立を築き上げる。	十分な備蓄を保管する場所を決め定期的に消費期限・不足分のチェックを行う。	2ヶ月
2	35	重度化対応・終末期ケア対応指針を契約時に説明し確認を得ているが具体的な支援体制や意思確認書等の書類を整備するまでに至っていない。	看取りに対する利用者、家族等の希望に応じた支援体制を創っていく。	事業所職員等の関係者間で重度化や終末期ケアについて話し合い書類の整備を図る。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。